

目指す学校像

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 36 (R4. 2. 14発行) 文責 校長 福田雅也

エンジェル・スマイル

現在本校では「いのちの学習」に取り組んでいます。各学年で計画的・系統的に学習が組み込まれていますが、その中でも「いのちの誕生」や「家族の思い」等は、発達段階に応じて何度か学習するようになっていきます。そんな学習の様子を見ながら、「赤ちゃんはどうしてあんなに可愛いのだろう」と、ふと思うことがありました。そこで自分なりに少し調べてみました。

赤ちゃんと言えば「笑顔」がつきものですが、赤ちゃんの笑顔には二つの段階があるそうです。

第一の段階は、生まれた後2～3カ月頃まで見られる「生理的微笑」です。

赤ちゃんがすやすやと寝ているときに、目を閉じたままほんの数秒にっこりすることがあります。しかし、生まれたての赤ちゃんは、まだ表情筋を自由に動かすことができません。笑っているような表情になるのは、反射神経の働きによります。赤ちゃんは非常に無力な存在で他者からの世話を十分に受けないと生存できないので、とびきりかわいい笑顔をふりまくことで他者からの愛情を得て生き延びようとするのだそうです。この時期の赤ちゃんは、母親に限らず誰に対しても天使のような笑顔を見せます。そのため、「エンジェル・スマイル」とも言われているそうです。

第二の段階が、生後2～3ヶ月頃から見られる「社会的微笑」です。これは私達大人の笑顔にもつながるものです。

生後2ヶ月頃を過ぎると、赤ちゃんは人の顔を見てにっこりと笑うようになってきます。これは、外的刺激に反応して笑うことができるようになってきたことを示していて、生理的微笑から発育が一步進んだことの証拠といえます。やがて、母親の顔をはっきりと認識し、母親の顔に対してにっこりと笑うようになります。逆に、見知らぬ人に対しては大泣きするようなこともあります。ここから先は、母親はもちろん、関わってくれるたくさんの方々の笑顔が、赤ちゃんの笑顔につながるようになるのです。笑顔に接する機会や時間が多いほど赤ちゃんの表情も豊かになっていくと考えてよさそうです。

このように調べてみると、「生理的微笑」については、「いのちの神秘さ」が感じられると思いました。多くの動物は、生まれてすぐに立ち上がることができ、すぐに自分を守る手段を手に入れます。しかし、人間は歩けるようになるまでに1年ほどの時間が必要なのです。その後も幼児期は親の保護があって成長していくことができます。人の赤ちゃんは、長い長い進化の中で、新生児期の自分を守る手段として「笑顔」を獲得したと考えることができるのではないのでしょうか。しかもその笑顔には、私が冒頭に書いたように、親ではない他の大人からも、可愛がられ守ってもらえるような力が秘められているのです。

そして、「社会的微笑」については、小学校段階の子育ても無関係ではないと感じました。社会的微笑を獲得する時期に、周りの大人の笑顔が少なかったり、関わりが乏しい人に囲まれて育つと、赤ちゃんも表情の乏しいまま成長していくことにはなるのではないのでしょうか。ネグレクトという無関心型の虐待を受けて育った子どもに表情が乏しいのはこのためのようです。程度の差はあると思いますが、早い段階でタブレットに子守をさせたり、際限なくゲームや動画視聴をさせ続けたり、夜遅くまで親のライフスタイルにつき合わせたりといった子育てはたいへん気がかりです。小学校段階は、まだまだ「社会的微笑」を獲得している段階と考えることができます。笑顔に溢れ、話題が豊富で、規則正しい生活を送る家庭で育つことで、小学校期であっても「社会的微笑」をどんどん増やすことができ、表情や感情が豊かな子どもたちが育つのではないのでしょうか。